

2018 人間生活工学ワークショップ「コミュニケーション:気持ちを伝える」

開催日 2018年11月9日(金曜) 13:30~17:00 (13:00より受付開始)

場所 早稲田大学 西早稲田キャンパス 62号館1階会議室

テーマ 「コミュニケーション:気持ちを伝える」

主催: 早稲田大学創造理工学部人間生活工学研究室・(一社)人間生活工学研究センター (HQL)

【開催の狙い】

プロダクト(モノやサービス)はそれを作る人だけでは成立しない。それを享受する人がいて成立するもの。その両者をつなぐものがインタフェース。プロダクトそれ自身がインタフェースであり、またその特徴を要約する広告などの媒体もインタフェース。そのインタフェースは、作り手の使い手を思いやる気持ちや願い、メッセージ=「気持ち」が託されているのではないか・・・そのようなインタフェースを如何にデザインしていくのか? 今回の人間生活工学ワークショップでは、「コミュニケーション:気持ちを伝える」というテーマのもと、識者や第一線でご活躍の皆様からご講演をいただき、参加者とともにその意味での「インタフェース」ということを考えていきたいと思っております。今回のワークショップを通じて、多くの気づきが得られることと期待しております。

(ファシリテート: 早稲田大学創造理工学部 経営システム工学科 小松原明哲教授)

■「江戸に探る広告のルーツ」

坂口由之様 公益財団法人吉田秀雄記念事業財団アドミュージアム東京 学芸員

江戸時代、大衆娯楽の「歌舞伎」「錦絵」「草双紙」などを媒体とした広告は、「伝える」ためのアイデアに溢れていました。町人文化を背景に繰り広げられた、粋で洒落た広告コミュニケーションとはどんなものだったのでしょうか。

■「デジタル活用による人の心を動かす体験や価値のデザイン」

田中培仁様 富士通デザイン(株) デザインディレクター

現在社会のあらゆる場面でICTが活用されています。ここでは主にICTの効率性が重視されてきました。これからのICTでは、感性にまつわる領域を重視してあえてICTを意識させないデザインが重要と考えています。私たちの提唱するAFFECTIVE DESIGNという新たな思想と、その概要や取り組みについてご紹介します。

■「広告クリエイティブの今」

佐藤雄介様 (株)電通 CMプランナー/コピーライター

カップヌードル、ポカリ、ドコモ、ギャツビーなど自分が関わってる広告事例の今について話します。広告クリエイティブや、表現に興味のある方、ぜひ。

【講師のご紹介】

坂口由之様 長年に渡り、(株)電通で広告クリエイトの実務に携わられる一方、広告の歴史について研究もされて来られました。現在は、公益財団法人吉田秀雄記念事業財団アドミュージアム東京の学芸員として、江戸期の広告にさかのぼった、広告研究の第一人者として活躍されておられます。

<http://www.admt.jp/>

田中培仁様 富士通デザイン(株)において、デザインディレクターとしてご活躍です。一級建築士の資格もお持ちで、都市や建築・空間デザインなど統合的なデザインの知見を活かし、ビジョン・サービス・製品・空間・プロモーションまでの統合的なデザイン活動を実践されています。日経ニューオフィス賞、SDA賞、グッドデザイン賞など多数の賞を受賞されています。

<http://journal.jp.fujitsu.com/2018/05/11/01/>

<http://journal.jp.fujitsu.com/2018/05/11/02/>

佐藤雄介様 (株)電通において、いま最も注目すべき看板クリエイターとしてご活躍です。CMプランナー/コピーライターとして、テレビCM、ウェブ、リアルなど多彩な手段により、多くのブランドを太く、彩り豊かに表現し、その優れたパフォーマンスにより、2017年「クリエイター・オブ・ザ・イヤー」(一般社団法人日本広告業協会)を受賞されています。

<http://www.dentsu.co.jp/news/release/2018/0314-009490.html>

【ご案内】

- どなたでも参加できますが、事前にお申し込み下さい。
会場の都合により先着40名まで受け付けます。
- 申し込み先：人間生活工学研究センター東京事務所 kouza@hq1.jp (FAX：03-5405-2143)
氏名と所属・連絡先 ※HQL会員(企業、個人)の方にはその旨を明記して下さい。
- 参加費：2000円(HQL会員は1000円)。当日受付にて支払い。
- 東京メトロ副都心線「西早稲田」駅下車が極めて便利です(キャンパスは駅に直結)。駅(早大理工方面出口)を出て頂きキャンパスの反対側(西端)の校舎が会場となります(会場は62号館1階)。

